中国四国農政局
ディスカバー
農山漁村の宝
選定地区

ディスカバー農山漁村の宝

【お問い合わせ先】

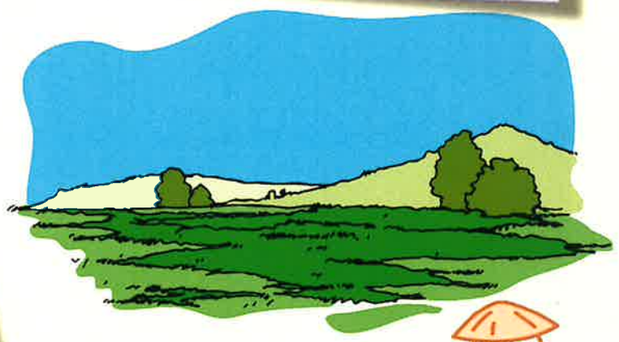
中国四国農政局山口県拠点地方参事官室
〒753-0088　山口県山口市中河原町6-16　山口地方合同庁舎1号館3階
☎083-922-5200

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532　岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号
☎086-224-4511（代表）

ディスカバー農山漁村（むら）の宝
（第９回応募団体）

取組事例集

これからは、農山漁村（むら）の時代だ。



令和５年３月
中国四国農政局

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和４年度）で９回目となります。

中国四国農政局管内では177件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として９地区と１名が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区（者）の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として９地区を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として28地区と２名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区（者）の事例について、その地域の「農山漁村（むら）の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。
各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html

令和５年３月
中国四国農政局農村振興部

目　　次

○ 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について ・・・・・・・・ 1

○ 応募地区（者）一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

○ 応募地区（者）位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

○ 応募地区（者）の取組事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

１．「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）では、令和４年６月 16 日から８月 26 日までに、農山漁村活性化の取組として全国から 616 件（管内からは 177 件）の応募があり、令和４年 11 月７日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）有識者懇談会において、団体部門（ビジネス・イノベーション部門及びコミュニティ・地産地消部門）で 33 地区と個人部門で４名が「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として選定されました。

中国四国農政局管内からは９地区と１名が選定され、その中から優秀賞のビジネス・イノベーション部門に高知県四万十町の「株式会社四万十ドラマ」、優秀賞のコミュニティ・地産地消部門に岡山県岡山市の「瀬戸内かきがらアグリ推進協議会」、優秀賞の個人部門に島根県奥出雲町の「大石亘太」、特別賞に鳥取県鳥取市の「NPO 法人 bankup」、徳島県海陽町の「株式会社リブル」、高知県高知市「高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部」が選定されました。

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

２．中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった177件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信するため、令和４年10月20日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、９地区を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として28地区と２名を選定しました。

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
オリジナルロゴマーク

３．管内選定地区（者）の概要

（１） 全国版選定（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第９回選定））

NPO 法人 bankup（鳥取県鳥取市）　特別賞

●大学生ボランティアの農村への派遣を 20 年以上継続して実施。
●交流企画や地域産品の加工販売を行う「農村 16 きっぷ」や米の生産から販売まで行う「田舎応援戦隊三徳レンジャー」等、地域活動のプロジェクトをおもしろいネーミングで運営。

学生ボランティアの様子

大石 亘太（島根県奥出雲町）　優秀賞

●牛の放牧が創り出す風景に憧れて牧場として省力的に山を管理し、多目的に利用できるフィールドとして整備するとともに、小頭数飼育により適正量の堆肥を土地に還元。
●バター作り体験などの観光メニューを提供するとともに、地域の保育園、幼稚園及び小学校の校外学習や遠足を受け入れ、「牛のいる風景」を解放。

来場者に牛の説明をする大石氏

瀬戸内かきがらアグリ推進協議会（岡山県岡山市）　優秀賞

●漁業関係者のみならず地域としての処理課題であった瀬戸内海で水揚げされた牡蠣の殻を加工粉砕して、農畜産物の生産・飼育に活用した農業を実施。
●牡蠣殻を農業者の手によって資源循環させた農畜産物を生産し、「里海米」など生産物に「里海」を冠してブランディング。

全国で排出される年間の
牡蠣殻は約 16 万トン

上籾みろく農場協議会（岡山県久米南町）

●耕作放棄地が目立っていた上籾地区中央の棚田を企業と共同で復元。継続して棚田の管理と農作業を実施。
●復元した棚田を見渡せる古民家カフェを運営。地元の農産物を使ったメニューを開発・提供するとともに、手作りの特産品や棚田米、オリジナル商品を販売。

棚田が見渡せる古民家カフェ
（棚田テラス「籾庵」）

川西自治連合会（広島県三次市）

●人口減少・高齢化とともに地域内産業が衰退。住民出資の地域運営株式会社と、地区全体で構成する自治連合会の２層構造により、農地・農業を守り、雇用を創出し、地域内経済循環を形成。
●少量多品目の農産物でも収益があげられるように、農村型コンビニを中心に、産直市、農産加工品販売、軽食堂部門を併設した、地域生活交流拠点「川西郷の駅」を運営。

地域と共に開催した
郷の駅感謝祭

かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

●過疎高齢化のため、単一地区での棚田保全・活性化活動の推進は困難なため、４地区で連携して活動。コロナ禍で、オンラインでの交流を行う「棚田ウェブ談議所」を開催し、町内外の人材と関係を構築。
●オンラインとリアル交流による「全国キッズ交流」、「オンライン産直市交流」と、これらの活動の発展系として「美しい村24時間オンラインライブ」を開催。

棚田ウェブ談義所

株式会社リブル（徳島県海陽町）　特別賞

●牡蠣の養殖で、データやアプリを活用して養殖技術の見える化を図り、養殖技術支援と強い種苗の生産の新規産業を創出。
●IT 技術を駆使した新たな水産業への理解醸成に向けて、小学校などの教育現場への出前授業や漁場案内等を実施。

地元の学生の漁場見学を毎年受入

株式会社山南営農組合（香川県三木町）

●効率的な農業の推進や地域の魅力を県内外に伝えることを目的に設立。地域のブランド米「小簑（こみの）米」の生産・販売等を実施。
●産直、レストランのほか、昔ながらの田舎暮らしが体験できる農家民宿を開業。学生や地域おこし協力隊とも連携した取組を展開。

地元農産物を提供する
農村レストラン

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部（高知県高知市）　特別賞

●地域課題である鳥獣被害の解決に向け、高校生が地元のシカやイノシシ肉を原料として商品開発を行い、販売。
●クラウドファンディングによって森林保護活動の資金を調達し、返礼品としてジビエ商品を活用。

高校生ジビエ・レストラン

株式会社四万十ドラマ（高知県四万十町）　優秀賞

●「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに地域の６次産業化に取り組む「地域商社」を実現。
●「しまんと地栗工場」の建設により以前の約５倍の製造体制が整い、地域の雇用の場となっている。栗の新植、芋の作付面積を拡大する取組等を開始。

高知県版 HACCAP を取得した工場

（２）地方版選定（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

株式会社　ｐｃｂ（鳥取県南部町）

●「ジェラートで地域おこし」を目標に、地域の小規模農家からその日に販売する分だけの農産物を買い取り、ジェラートに加工して販売。
●コロナ禍で来店が難しいという声があり、移動販売車を導入。
●週に１回、地元ラジオ局の「ジェラテリアお千代さん」というコーナーで、旬の農作物の話題、地域の話題などを発信。

地元の旬な農作物が新鮮なジェラートへ

社会医療法人正光会 さんさん牧場（島根県益田市）

●引退後の競走馬の貴重な受け皿となり、乗馬やセラピー、馬事文化の継承として流鏑馬神事に参加するなど様々な活動を行う。
●農福連携として、同法人Ｂ型事業所と市内の卸売業者と連携した「農・商・福連携事業」を実施。障害者の社会参加や地産地消の推進に貢献。
●有機質が多い馬糞を活用した循環型農業を実施。

観光牧場として、休日は親子連れで賑わう

おかき戦隊瀬戸南じゃ～（岡山県岡山市）

●学生が有機農法で育てたもち米と地域の特産品を使い新商品「瀬戸南おかき」を開発。
●カラフルなつなぎで地域イベントに参加し、販売活動を行うとともに、地域特産品の宣伝にも取り組む。

地域の販売会で歌を披露

広島みはらプリンプロジェクト実行委員会（広島県三原市）

●広島みはらプリンで三原のまちと食材の付加価値向上や地域経済循環を図り、全国へ発信。「三原の食材を一つ以上使用」「三原を応援する人（店）」が作ったプリンであれば、随時認定。
●イベントにも積極的に参加し、他地域での催事に出店し、プロモーションを実施。公式の HP や Instagram も開設し、認定されたプリンの紹介やイベント出店情報などを発信。

各店のこだわりが詰まった認定プリン

エシカルバンブー株式会社（山口県防府市）

●「竹害」を「竹財」に変える。環境保全・再生のために伐採した不要な竹に付加価値を付け、未来に有益な竹産業を残す。
●竹の研究者や竹炭職人と連携して商品開発。地域企業とのコラボ商品開発等で、竹の全部位を活かすエシカルなものづくりを追及。
●竹関連事業者の支援及び次世代に繋ぐ竹育や情報発信を行う「竹 LABO」の総合監修・運営。

放置竹林の伐採の様子

合同会社みつぐるま（徳島県海陽町）

●轟神社及び海部川流域における１次産業振興支援。海部川流域での酒米作りから酒蔵との連携、細部にまでこだわり抜いたオリジナル御神酒作りに取り組む。
●文化庁事業を活用し、地域の魅力を体感するツアーを企画・造成。
●轟神社公式 HP 製作運営し、海部川流域の自然環境や文化を発信。

轟神社秋例大祭

アスパラ大騒ぎ実行委員会（香川県高松市）

●地元企業の協力を得て、廃棄対象となるアスパラの軸下部分をパウダーに加工して料理に使用。アスパラ素麺を企画開発。
●アスパラをモチーフとした帽子、アクセサリー、皿等を企画販売の他、アスパラ人形作り、顔抜きパネルの制作、アスパラ×和菓子のワークショップやトークショーを実施。
●県内の飲食店が個性あふれるアスパラ料理を展開。

高校デザイン科制作オブジェ
顔抜きパネル

愛媛県立南宇和高等学校農業クラブ（愛媛県愛南町）

●柑橘類において教育機関として初めて河内晩柑・甘夏で GGAP 認証を取得し、東京オリンピック選手村に提供して愛南ゴールド(河内晩柑)を PR。
●地元水産加工会社により、GGAP 認証の愛南ゴールドと MEL 認証の養殖真鯛のコラボで「愛南ゴールド真鯛」を開発。

柑橘類で教育機関初の
GGAP 認証取得

特定非営利活動法人日高わのわ会（高知県日高村）

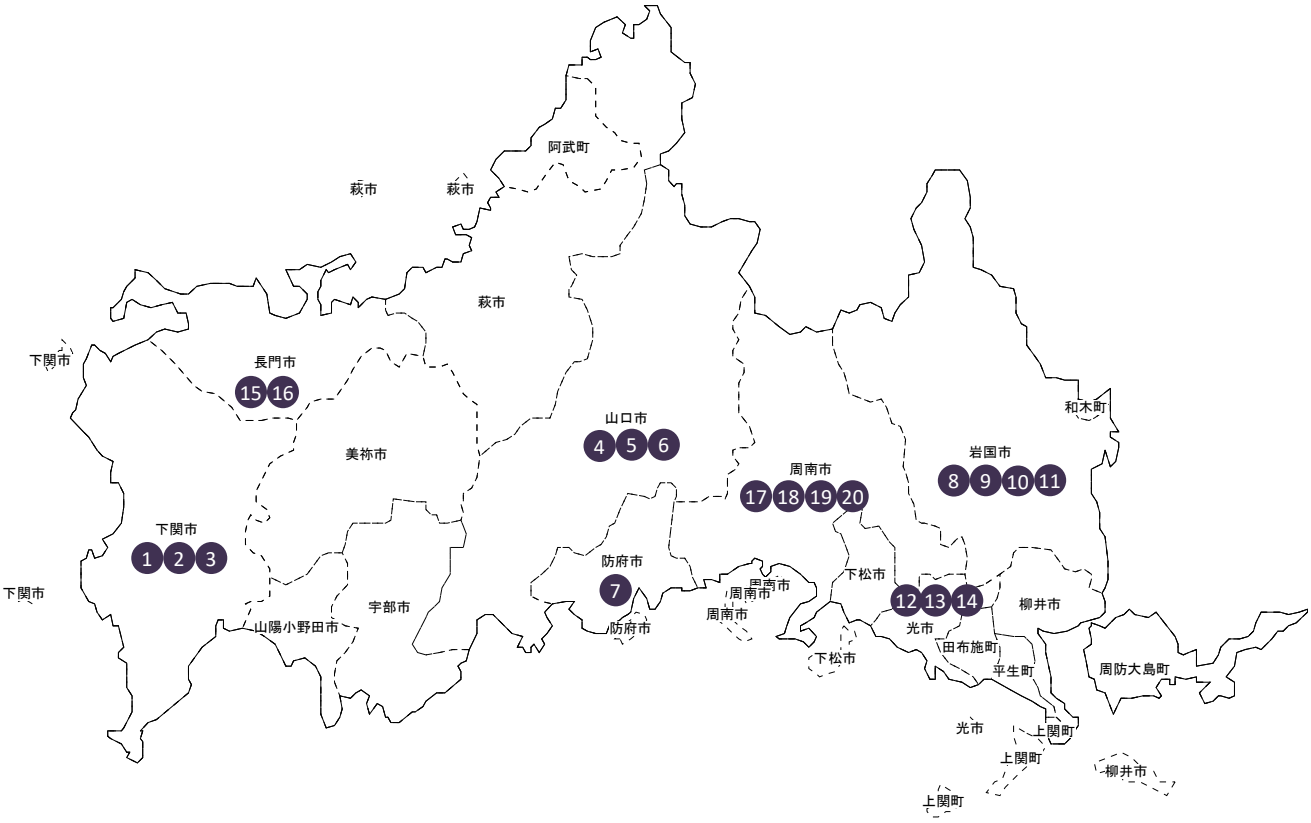
●「できる人が　出来ることを　出来る時間に」を合言葉に社会的弱者が地域を支える仕組みを構築。地域の困りごとを解決するコミュニティ産業の開発と展開。障がい者支援など大小合わせて約 30 事業を展開。
●小規模多機能型の事業を展開することで、行政サービスでは届ききらないニッチな住民ニーズに対応。

とまととでの記念撮影

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第9回選定） 応募地区（者） 一覧 （山口県）

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		団体	下関市	有限会社　司ガーデン	6次産業化	食育・教育	環境保全・景観保全
②	奨励賞	個人	下関市	山本　忍	地域活性	竹林再生	6次産業化
③		団体	下関市	王司干潟改良グループ	水産業	環境保全	地域活性化
④		団体	山口市	株式会社 藤村農園	農業	食育・教育	女性の活躍
⑤		団体	山口市	株式会社木原製作所	6次産業化	企業との連携	教育機関との連携
⑥	奨励賞	団体	山口市	きららネット阿知須	教育機関との連携	農村環境・景観保全	その他（地域の人材活用）
⑦		団体	防府市	エシカルバンブー株式会社	伝統の継承	環境保全（農林水産業・食品産業）	高齢者の活躍
⑧		団体	岩国市	山口県農業協同組合FAM'Sキッチンいわくに	農業	地産地消	農福連携
⑨		団体	岩国市	企業組合河内グランマ	地産地消	高齢者の活躍	女性の活躍
⑩	奨励賞	団体	岩国市	向峠集落協定	スマート農林水産業	企業との連携	農村環境・景観保全
⑪		団体	岩国市	株式会社デナリファーム	農業	農福連携	高齢者の活躍
⑫		団体	光市	農事組合法人つかり	農業	6次産業化	企業との連携
⑬		団体	光市	光市農業振興拠点施設「里の厨（くりや）」	農業	地産地消	食育・教育
⑭	奨励賞	団体	光市	農事組合法人石城の里	農業	スマート農林水産業	鳥獣被害防止
⑮		団体	長門市	特定非営利活動法人　ゆや棚田景観保存会	農村環境・景観保全	食育・教育	6次産業化
⑯		団体	長門市	三隅林業研究グループ×長門やきとり横丁連絡協議会	里山再生	森林再生	農商連携
⑰		団体	周南市	棚田清流の会	棚田保全	荒廃農地対策	農村環境・景観保全
⑱		団体	周南市	株式会社かの高原開発	伝統の継承	農福連携	―
⑲	奨励賞	団体	周南市 山口市	株式会社　つなぐファーム 農事組合法人　杵崎の里	6次産業化	企業との連携	農村環境・景観保全
⑳	奨励賞	団体	周南市	有限会社福田フルーツパーク	農村文化体験	環境保全（農林水産業・食品産業）	農村環境・景観保全

応募地区（者）位置図（山口県）



1 山口県下関市（しものせき）

6次産業化　食育・教育　環境保全・景観保全

有限会社司ガーデン（ゆうげんがいしゃ つかさ）

～『花硝子』 フラワーロス0（ゼロ）へ地域で考える～

ハロウィンキャンドルと小学校イベント

廃棄される花と廃棄ガラスから出来る花硝子（左）
ボタニカルキャンドル（右）

経　緯

○地元の景色が、荒廃農地の増加などでどんどん寂しくなる中、花の販売額も若年層を中心に減少している現状に危機感を持った。
○花農家ができることとして、観賞用かぼちゃの活用を思い付き、また、花を通じて地元の原風景や賑わいを取り戻したいとの思いから「ハロかぼプロジェクト」を立ち上げた。

取組内容

○ハロウィンかぼちゃと花を活用した地域活性化、荒廃農地の解消、小学生等への情操教育、SDGsへの取組み、廃棄農産物の再利用等の実施。
○廃棄される下関地域資源（花、クジラ油脂等）を利用したボタニカルキャンドルの開発、販売。
○海辺に漂着した廃棄硝子を活用し、花硝子作りが出来る「花硝子体験工房」を直売所（畦花）近隣にオープン予定である。

活動の効果

○ハロウィンかぼちゃを活用して、市内の小学生、高校生とともにイベントを開催。イベント参加者は10年で延べ3万人を超えた。また、高校生が小学生へ指導するなど情操教育の場としても注目を集めた。
○情報発信場所で、農産物や加工品を販売することにより、情報発信・交換だけでなく免許証を返納し買い物難民になりつつある高齢者の買い物場所としての利用も増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

花を通じて地域が笑顔になれる、この地域で稼いで暮らし続けることが地域活性化につながるものと信じている。地域を巻き込んで開催したハロウィンイベントやハロウィンキャンドルが、コロナの先の希望の灯りとなり地域の宝になればと思う。

下関市豊北町大字神田上4905-4　Tel：083-788-1321

② 山口県下関市（しものせき）

地域活性　竹林再生　6次産業化

奨励賞

山本　忍（やまもと　しのぶ）

～First take, no KO ~ 最高のタケと向き合う～

国内外の観光客へ竹林整備及びタケノコ掘体験

白子筍の商品

経　緯

○山口県は日本で4番目に竹林が多い立地にあり、放置竹林問題とともに消費者の購買意欲が低下したため、ターゲットを変えた高品質な筍生産へシフトした。
○近年、新型コロナ感染症の影響を受け、売り上げが激減したため、販路拡大を目指し商品開発など販売力の強化を行うこととなった。

取組内容

○高品質の筍生産及び生産者増加のため、地区内外の部会に講師として参画。
○インバウンド需要に対応した、国内外観光客への竹林整備体験の受入れを実施。
○販路拡大のため、家庭向けに拡大し、商品開発とともに、ECサイトの構築、キッチンカーでの筍料理の販売など実施。
○「やまぐち農林漁業ステキ女子」の活動に参画し、関係者との連携を図りマルシェ等の活動実施や情報発信。

活動の効果

○京都式軟化栽培法により、農薬、化学肥料を使用しない環境や食の安心・安全に配慮した高品質な筍生産を目指し、販売先から高評価を得るとともに、多くのメディアに取り上げられるなど反響があった。
○外国人の竹林整備体験の受け入れにより、日本の情景や筍のPRを行うとともに、観光たけのこ園を通じて新たな所得創出の場が増えた。
○新たな生産体制や商品開発の構築により、生産基盤、加工技術が確立できた。

応募者からのアピール・メッセージ

日本一の筍生産を追求し、筍ビジネスのロールモデルを構築・確立・普及を図り、県内の放置竹林が高品質筍産地として再生し、ブランド化になることを目指す。

下関市松屋上町3-1745　Tel:083-282-4074

③ 山口県下関市（しものせき）

水産業　環境保全　地域活性化

王司干潟改良グループ（おうじひがたかいりょう）

～豊かな干潟を子や孫に！～

稚貝を定着させる竹立ての様子

小学5年生による「ツメタ貝」駆除の様子

経　緯

○千鳥浜は全国でも有数・山口県最大の干潟であり、昭和60年代までアサリ等が豊富で潮干狩りなど賑わっていた。
○年々漁獲量が減少し、近年ではあさりがほとんど獲れなくなったため、豊かな干潟を次世代の子供たちへ継承させるため、平成21年にグループを設立した。

取組内容

○竹を加工し干潟に立て稚貝の棲み処を作ったり、トラクターで干潟を耕し、土中に酸素を取り込むことにより、多くの生物が生息できる環境整備を行っている。
○アサリの天敵である「ツメタ貝」の駆除を、地元小学5年生の総合学習と併せ実施している。
○多くのメディアへ活動をPRするとともに、他地域へ干潟の重要性を情報発信している。

活動の効果

○取組が多くのメディアに取り上げられ、地域の方々に干潟の重要性が再認識され、活動全体が活性化している。
○これまでの活動全般が評価され、R2.10.15に山口県知事から表彰、H30.5.18　山口県瀬戸内海環境保全協会より表彰を受けた。
○近年では、「初日の出」のスポットとして、たくさんの参拝客が来るとともに、どんど焼きを干潟で開催するなど地域活動が年々盛んになっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

恵まれた立地を活かし、「干潟の良さを感じることのできる場」となることを目指し、活動を継続していきたい。

下関市王司本町6丁目2-28　Tel：083-248-0711

4 山口県山口市（やまぐち）

農業　食育・教育　女性の活躍

株式会社（かぶしきがいしゃ）　藤村農園（ふじむらのうえん）

～力強い農業で未来に挑む～

幸崎干拓での「二島キャベツ」の収穫

活躍する若手女性社員

経　緯

○山口市幸崎干拓は県内最大の露地野菜産地を誇るが、近年は、高齢化等により耕作放棄地が増加し、産地のブランド力低下が進行。
○令和2年、更なる経営発展に向けて経営を法人化。女性社員の活力を生かしながら販路拡大に取り組むとともに、研修生の受け入れ等、産地の人材育成も貢献するなど、キャベツ産地の再生に向けた取り組みを実践。

取組内容

○「県内一のキャベツ産地」をPRするため、二島キャベツ部会販売促進グループを発足。販売会の開催や加工品開発（キャベツパン等）を行うなど、産地ブランド強化に貢献。
○市内の旅館組合や商工業者を対象とした視察会の開催や、行政と連携した移住体験ツアーやワーケーション、地域おこし協力隊の受入など、地域活性化にも尽力。
○地域農業の未来を担う人材育成として、農大卒女性2名採用し、栽培から販売までの管理責任を任せることで人材力を強化。

活動の効果

○春夏野菜の売り上げは、新任女性社員の活躍により、採用前と比較して3倍に増加。
○女性社員の活躍に加え、人的交流の促進や加工品開発等産地振興に取り組んだ結果、特産二島キャベツの作付面積は、5年前の3倍にまで増加。（幸崎干拓の農地利用は、平成12年就農時の約5倍にまで拡大）

応募団体からのアピール・メッセージ

野菜パックセンター設置の際には、地域の雇用創出にも繋げることができ、地域農業・地域産業の発展への貢献を目指しています。

山口市秋穂二島3273-2　Tel：083-987-3104

5 山口県山口市（やまぐち）

6次産業化　企業との連携　教育機関との連携

株式会社（かぶしきがいしゃ）　木原製作所（きはらせいさくしょ）

～乾物プロジェクト地域振興事例を世界に発信～

廃棄花の商品開発体験

「グローバル知財戦略フォーラム」で事例発表

経　緯

○平成22年、山口市が新たな地域産業戦略の構想を開始したことを受け「乾燥技術」を地域資源として活用し、複数団体とのドライフード商品開発と圏域ブランドの構築を市に提案。
○平成23年、乾燥食品の開発販売を軸とした国内初の地域振興事業「山口から“Kanbutsu”を発信。」プロジェクトが総務省で採択。

取組内容

○企画立案、機器技術提供、試作開発、デザイン、販売方法等のアドバイスや商標登録、イベント等を活用した発表方法等を無償サポートし、商品開発をサポート。
○事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレーなど、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。

活動の効果

○サポートした商品は、多様なメディアに取り上げられ、山口市の地域振興の取組や少量多品目の1次産品の認知度を向上させ、多様な産官学の連携を生み出した。
○本取組をきっかけとして、平成24年に農林水産大臣から機械メーカーでは全国初となる「ボランタリープランナー」任命。
○テレビ、新聞、ラジオ等各メディアで累計124回紹介され、商品売上と地域PRに貢献し、海外政府機関からも注目。

応募団体からのアピール・メッセージ

１次産業の高付加価値化がより深刻な課題となっている海外に対し、課題解決の事例として情報発信に努め、コロナ禍収束後には日本国内のインバウンドやSDGs「飢餓をゼロに」「持続可能な産業開発」にも貢献できるよう取り組む。

URL：https://www.kiharaworks.com/　　山口市秋穂西3106-1　Tel：083-984-2211